

学校名	明善小学校		
ホームページURL	児童・生徒数 703名		
(1) テーマ(単元名)	(2) 活動の単位に○をつけてください		
「夜の地球」 テーマの分類（ - ウ ） 下記の欄外記載事項を参照してください。	学級 ・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他（ ） 該当学年 5年 （回答可能な場合）		
(3) 活動のねらい			
- 発電の仕組みについて知ることができる。（水力・火力・原子力・地熱を始め、新エネルギーについても扱う。） - 具体的資料を通して、日本の電力使用量について問題意識をもつことができる。 - 環境 エネルギー問題を自分の問題として捉えることができる。 - 主体的に調査活動に取り組むことができる。			
(4) 活動の実際（活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等）			
「夜の地球」ポスターを見て、日本や世界のエネルギー使用状況について問題意識をもつ。 - 日本の電力使用量、発電実績、新エネルギーの可能性について検討する。 「手動ダイナモ」を用いて電気を作る体験をする。 - 自分の使った電化製品の消費電力、待機電力について調査し、節電の意識を高める。 時数（6時間）			
(5) 指導体制（校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等）			
- 担任が主に指導。 - 調査活動については家庭の協力を得て行った。			
(6) 指導上の留意点（時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等）			
- 時間数は各教科の移行にわかる余剰時数により算出した。 - 国語科「一秒が一年をこわす」、社会科「これからの工業と環境」、特別活動「故郷の川」からの発展。			
(7) 評価（基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際）			
- 環境・エネルギー問題を始めとする、現代的な課題を解決するための第一歩としてこの活動を仕組んだ。節電についてどれくらい意識を向け、実行に移せるかが評価のポイントになる。 - 評価の実際は、学習カードによる自己評価、調査活動の様子等を総合的に評価する。			
(8) 成果と課題			
- 石油や天然ガスの可採年数や新エネルギーの可能性を知ることによって、これからのエネルギー使用について問題意識を持つことが出来た。節電の意識も育っていると思われる。 - 将来に関わる課題でもある。近未来に備える教育は今後とも必要になると考えられる。 - 調査活動は多岐に渡る。担任一人での指導は難しい。IT等の工夫を研究する必要あり。			

の特色に応じた課題